



校長室だより～湘南の空～

第 29 号

令和 5 年 12 月 22 日

今年を振り返ると、生徒の皆さんは日々の勉強、学校行事はもちろん、部活動や同好会での活躍が目覚ましく、取り分けプロセスにおける努力が素晴らしかった。体育祭や文化祭への大勢の外部の方の来場など、昨年と大きく異なる状況下で見事に乗り切ったことは印象深い。湘南生はますます輝いている。

皆さんの今後の挑戦が楽しみでならない。

目まぐるしいコラボレーション

私にとって、芝居の面白さは脚本家、演出家、役者それぞれの人生と自分の人生が重なるところにある。本校 3 年生泉まいこさんの脚本『誰もセリフを覚えてない！』が「2023 年度子どもが上演する劇脚本募集」において準入選となり、『演劇と教育』2023 年 11+12 月合併号に掲載された。あらすじは夏の大会が感染症対策のため中止になってしまった 6 人の高校演劇部員が挑む 60 分間での劇づくり。短い時間に凝縮した目まぐるしいコラボレーション、コミュニケーション、クリティカルシンキング、クリエイティブイノベーション、そして全校集会でのラスト舞台の幕が上がる直前に込み上げる自信。

泉さん自身の高校生活最後かもしれない脚本作品であることと劇中の高校生のラスト舞台も重なる。湘南の体育祭にも通じる、躍動する芝居になるに違いない。努力を評価して高め合う湘南生に相応しいメッセージがある。

第 27 回全国高校生創作コンテスト（國學院大學・高校生新聞社主催）の現代詩部門で本校 3 年生の井之川帆南さんが『白い花びら』という作品で最優秀賞を受賞した。「夏の黒にその白はよく映えた／首筋が炭酸を飲み干すやうに震へる／私の家の裏山にやつてくる蛾の大群が／私は大嫌いだつた」冒頭の 4 行で世界に引き込まれ、一つひとつの言葉が共鳴し独自の空間を演出する。

湘南生の可能性は無限に広がっている。生徒の皆さんは引き続き目先の結果にとらわれず、応援してくださる方の笑顔や未来の社会を想像して突き進んでいただきたい。

長期的な都市論を考える

2023 年 10 月 24 日、湘友会横浜支部総会が開催され、本校 44 回生で横浜市芸術文化振興財団専務理事の恵良隆二氏からみなとみらいの開発についての話聞くことができた。「三菱重工業横浜造船所があった土地のうち 20 ヘクタール

を三菱地所が取得し、地権者としてみなとみらい開発に参加した。私は（三菱地所）入社から数年の1970年代後半には社内のプロジェクトに関わった。80年に三菱重工造船所の移転が正式に決まり、かつてない大きな街づくりに参画することになった」（2023/7/14 日本経済新聞）

恵良氏はみなとみらいを開発するにあたり、米国や欧州に成功事例のあったウォーターフロント開発を参考にしたという。88年に横浜市も含めた地権者らで結んだ『街づくり基本協定』がみなとみらいの都市イメージを明確なものにした。横浜ランドマークタワーからパシフィコ横浜まで内陸から海辺へと続くラインを最初に一気に作り上げた。恵良氏は街づくりに未来の人々の流れを想像しながら、明確なデザインを実現した。例えば、横浜美術館前のモミジバフウ並木は行きかう人々の歩く喜びを演出している。

——これからの街づくりに期待することは何ですか。

「長期的な都市論を考える人が出てきてほしい。みなとみらい開発は理想が問われ、評価される時代だった。不動産会社やデベロッパーは投資とリターンという発想だけではなく、いい街をつくる姿勢を持ち続けてもらいたい。福祉的な視点でもLGBT（性的少数者）の視点でもいい。理想を掲げることが企業のブランディングにもなる」

恵良氏の豊かなビジョンと理想を掲げて企画を推進する力は圧巻である。

「あなたは世界をどう変えますか。」生徒の皆さんにはこのような問いに立ち向かっていただきたい。

それぞれのやり方で自己形成していく

55回生でエッセイストとして活躍する岸本葉子さんは本校放送部製作の100周年記念映像の中で湘南高校の魅力について次のように述べている。

湘南高校の良さは、誰もが居場所があることだと思います。10代という多感な時代なので誰にも会いたくないとかひとりになりたいとかそういった時もあると思います。ひとりになれる、あるいは大切な友達と数人きりになれるような場所があるということはとても恵まれたことだと思います。

湘南高校というものはそれぞれがそれぞれのやり方で自己形成していくことを許してくれる場所というか待っている場所というか寛容に受け入れてくれる場所だなと思います。それが本当に魅力だと思います。

それぞれがそれぞれのやり方で自己形成していくことについて、勉強における切磋琢磨はもちろん、生徒の自治や協働によって運営される学校行事は巨大な器として湘南生を涵養してきた。卒業生は湘南の自治について振り返る度に目を細め、自分を受け止めてくれた仲間や学校に感謝するのである。